

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
03	函館ジャーナリズム

メンバー	[学 生] 伊藤 夕貴 / 北山 創一朗 / 佐川 優花 / 佐々木 樹 / 坪田 岳穂 / 横山 智文 [担当教員] 飯山 雅史
------	-------------------------------------------------------------------------

【背景】

函館を中心とした道南地域の魅力的な話題を掘り起こし、記事にまとめ、ブログサイトに投稿しようと考えた。

【目的】

社会で活躍する大人に話を聞くという「取材する」能力、取材した内容を基に、記事を作成するという「ものを書く」能力を養うため。

【概要】

道南地域の話題についてメンバーが持ち寄り、話題性、公共性などの観点から、どの話題を取り上げるのかを吟味。テーマ決定後取材先を決め、取材交渉を行い、取材。事実が伝わりやすいよう記事を作成、教員やメンバーによるアドバイスを基に手直しを行う。その後ブログサイト上に記事をアップロードした。

【プロセスと成果】

前期の活動では、まず取材の仕方、記事の書き方について学んだ。取材に関しては、取材交渉の際に気を付けなければならないこと、取材に行き話を聞く際にどのような点に注意すべきか、意識すべきかについて学び、記事の作成に関しては、事実をそのまま伝えるということと、読み手が読みたいと思う、伝わりやすい文章にするにはどのような点を意識すべきかについて学んだ。

また、北海道新聞社の記者の方にお越しいただき、実際の現場ではどのように取材を行い、記事を作成しているのかについてご教授いただいた。

5月からは3人1組の2グループに分かれて取材を行った。各チームが2つの取材先へ取材を行い、記事を作成、その後研究室に集まり、記事の読み合わせを行った。記事の読み合わせでは、メンバー1人1人が記事についての意見を述べ、それについて考察を行い、記事の手直しを行った。また、飯山先生の指導によって、新聞記事に近い文章を作成することができた。

その後、班を決め直し、初回の記事とは違ったメンバーで取材、記事の作成を行った。1本目の記事での反省を生かし、より完成度の高い記事を読み合わせの際に持ち寄ることができた。

後期の活動では、開始するにあたって公共性も意識しつつ、以前よりも個人の興味のあるテーマ選択をするということを決めた。また、班員を1グループ2名に減らすことによって、1人当たりの仕事量が増え、全員が活発な活動を行うようになった。これにより、11月中に合計3本の記事を完成させることができた。

この時点で記事の書き方に対する指摘は減り、ジャーナリズム的文章を書くことに慣れることができた。しかし、12月に取り組んだ最終記事では、3本中2本が予定通りに取材、記事作成が進まないということがあった。予定していた取材先に取材を断られてしまったことや、情報共有のミスが原因であった。その中でも、できる限りの情報から記事を作成することはできたため、取材が計画通りにいかない時の対処法というものを学ぶことができた。

本プロジェクト最終回では、作成した全ての記事を冊子にまとめ、取材に応じていただいた団体へ郵送した。



製本作業をしている様子



完成した冊子

【総括と反省・今後の課題】

前期は、記事を作成するとはどのようなことなのかということを学ぶ期間であった。座学を実践するという段階まで行うことができた。人に伝わりやすい、読んでもらうことができる文章とはどのような記事かを全員が意識してプロジェクトに取り組んでいた。

後期は、前期で学び、実践したことの完成度を高める、継続するという期間であった。記事の読み合わせごとに学んだことを活かして、まず校閲を行う、その次に他人に見てもらおうという流れができていたように感じる。より完成度の高い記事が読み合わせの時点でできていたということは成長を感じた。1班当たりの人数を減らしたにも関わらず完成度が上がっていたことが、個人の力がついたことを実感させた。

今後の課題としては、テーマ選択の際に、より新しいことを選び、記事に話題性を持たせることが必要であり、記事を完成させ発信するまでの時間を短縮することが必要だ。そのためには、作業スピードの向上、道南地域の話題について常に探索することが必要であろう。

【地域からの評価】

取材先の方々からは「是非地域の活性化のためにこの取り組みを知ってほしい」などという声があがった。本プロジェクトでは非営利組織やイベントへの取材も行ったため、各団体の取り組みやイベントをこれからも継続し、規模を拡大するために、ぜひ協力して欲しいという声が多かった。今後もこのような地域と大学を繋ぐ活動を行うことで若者の力を活かしたい、若者と協力していきたいという意見もあった。

また、作成した冊子についてお礼のメールをいただくこともあった。

【年間スケジュール】

■前期

- 4月14日 第1回 「顔合わせ、プロジェクトについて」
- 4月21日 第2回 「記事の書き方について」
- 5月12日 第3回 「テーマ選択」
- 5月19日 第4回 「現役新聞記者による書き方講座」
- 6月 9日 第5回 「記事読み合わせ」
- 6月16日 第6回 「テーマ選択」
- 7月 9日 第7回 「取材中間ミーティング」
- 7月29日 第8回 「記事読み合わせ、前期振り返り」

■後期

- 10月 6日 第1回 「後期活動計画」
- 10月11日 第2回 「テーマ決定」
- 10月27日 第3回 「取材中間ミーティング」
- 11月10日 第4回 「記事読み合わせ、次回テーマの決定」
- 12月22日 第5回 「記事読み合わせ」
- 1月12日 第6回 「発表製本の計画、役割分担」
- 1月19日 第7回 「発表会のパワーポイント作成、製本」
- 1月26日 第8回 「冊子の郵送」

